

ほきと折りて萎花多きつゝじかな 大正一〇

花つゝじ咲きかたまりて萎えそめぬ 同

つゝじ野や小松の丈も同じ程 同一五

右つゝじ左櫻の御堂茶屋 昭和二

映りたるつゝじに緋鯉現れし 同

山莊のつゝじの花の明るさよ 同四

花の後つゝじ見に行くお室茶屋 同

つくばひにつゝじの花の塵一つ 同

客主つゝじがくれに逍遙す 同六

一株は花しまひたる躑躅かな 同七

作り花かと思はるゝ躑躅あり 同

丈高きつゝじあり部屋幽なり 同八

躑躅あり山櫻あり逍遙す 同

岩つゝじ漸く濤に這入りけり 同

躑躅あり一枚岩の真中に 昭和八・ 388

牛車傾き通る山つゝじ 同 九

折り捨てし躑躅漂ふ古江かな 同 一〇

上海二句

日本にある思ひなる庭つゝじ 同 一一

上海やつゝじ倚り咲く太湖石 同

分け行けば躑躅の花粉袖にあり 同 一三

茶店あり躑躅植ゑしはこのあひだ 同 一五

紙屑に躑躅の花もまじり掃き 同

食卓の花もつゝじや躑躅園 同 一六

公園のつゝじ原なるこのあたり 同

群りて躑躅の瓣の葉を押し 同

葉ほつく花ばかりなる躑躅かな 同

ぺつたりと赤一色のつゝじかな 同

柳絮

湯の客の送り迎へや柳絮とぶ

昭和四

扇もて柳絮を拂ふ支那婦人 同

旅人の肩にもすそに柳絮とぶ 同

おもむろに窓に入り来る柳絮かな 同

大空にあらはれ来る柳絮かな 同

旅悲し柳絮とびかふばかりなり 同

柳絮とぶ新市街なる一番戸 同

舊城市柳絮とぶことしきりなり 同

渉らむと佇む人に柳絮とぶ 同

歩々軽く柳の絮の飛ぶ日なり 同一五

柳より霏々として絮生れ飛ぶ 同

窓ありと窺ひ飛べる柳絮かな 同一六

柳絮飛ぶ吾に心のある如く 同

寄せ書の葉書の上を柳絮飛ぶ 同

送り来て茲に別るゝ柳絮飛ぶ。昭和一六

薊の花

富士に在る花と思へば薊かな。明治三八

溪流や石に生ひたる花薊。昭和二

必ずや薊の花に蛇のゐる。同三

似て似ざる薊たんぼゝ彼と彼。同 一七

藤

裏山や路急にして藤の花。明治三〇

藤生けて雨戸しめたる座敷かな。同

大なる藤に小さき藤のからみけり。同

間道の藤多き邊に出でたりし。同 三一

公園やうつし植ゑたる藤の花。同

藤棚や二軒竝んで煮賣茶屋。同

裏山に藤波かゝるお寺かな。同 三七

藤の茶屋雨が降り来てぬるゝ馬。同 三九

藤の茶屋女房ほめく馬士つどふ。同

熊笹に地を這ふ藤や山深し 明治三九

394

移されて淋しき藤の咲きにけり 大正二

佳賓あれば開く雨戸や藤の花 同

咲きそめて藤現れぬ向ふ山 同 九

たゝへ登りし藤見失ひ戻り道 同

銀閣の後ろの山に藤ありや 同

藤の根に猫蛇相搏つ妖々と 同

草臥れや見上げ見下ろす山の藤 同 一三

陰晴の日に幾度か峰の藤 同

前山の藤の紫現れぬ 同

藤を見てもとの日當る神前へ 同

又少し小寒くなりぬ藤の雨 昭和 三

傘さして雨の藤見るいとまかな 同

藤の花蔭に垂れたる暮春かな 同 六

395

藤棚の奥の茶店の婢かな 昭和七

大蛇に藤の花房やさしさよ 同

山寺や巖を這へる藤の花 同

大和なる藤咲く森を伐るなかれ 同 一〇

奈良茶飯出来るに間あり藤の花 同

藤垂れて今宵の船も波なけん 同

山藤に大きな蛇や淵の上 同

藤垂れて静に暗き産屋かな 同 一三

山藤のかゝりて悲し御陵道 同

藤垂れて御あかしともる御陵かな 同

昨は越の山路の藤を見つゝありし 同

畦藤の紫すぎし車窓かな 同 一五

楠目橙黄子を悼む

藤つゝじ今を盛りと思ひしに 同

高殿や四方の山に藤かゝる 昭和一五

風吹いて藤浪わたる峰の松 同

藤蔓の船の屋根摺る音なりし 同一八

行春や心もとなき京便 明治二七

行春や昔男の文のから 同

行春や旅にやせたる白拍子 同

行春や三千の官女怨あり 同

行春を京の大寺静かなり 同

炭とりを反古籠にして行春や 同二八

行春の雲五色にぞ亂れたる 同二九

行春を尼になるとの便りあり 同

行春や疊んで古き戀衣 同三〇

行春や草に哀しき蝶のから 同三八

東慶寺開山の像

行春の墓も御像も小さけれ 大正二

この春は徂くにつけても風雨かな 同三

行春や松を惜みて楓伐る 同

行春や齒朶の中なる深山藤 同八

行春の定期船なき港かな 同

行春の紅丸や波の上 同九

行春や人をかくして太柱 同

行春のまとゐに缺けし誰々ぞ 同一五

行春や西山の邊の丹波路 昭和二

行春や京の泊りも早七日 同三

行春の女のかごと盡くるなし 同九

林家女將追福

たとふればすみ田の春のゆきしごと 同一四

ゆく春の風さわだちて心地よし 同一五

ゆく春の書に對すれば古人あり 昭和一五

春ゆくをとゞめたゆたふ景色かな 同一六

窓外の風塵春の行かんとす 同

ゆく春の坂ありこれを登らばや 同一七

ゆく春や事務の机に皆在らず 同一八

雨多く不順勝にて春の行く 同一九

暮の春 酒を妻妻を酒にして春くるゝ 明治二七

雨となつて今年の春もくれにけり 同

旅せんと思ひし春もくれにけり 同二八

貧居

隣から釘うつ柱くるゝ春 同二九

狼を化かして狐くるゝ春 同

叡山を下りて母とふ暮の春 同三八

盗まれし琵琶惜む詩や暮の春 同

甘酒の赤き行燈や暮の春 明治三九

樹をくれて短冊所望暮の春 大正八

父となり母となりつゝ春暮るゝ 同一三

便船のいつ止みけらし暮の春 同一五

蒲公英の絮のとぶあり暮春の賦 昭和九

さまざまの情のもつれ暮の春 同一二

とぎれたる暮春の畦を跨ぎ行 同

垣外の暮春の道の小さゝよ 同一三

山吹の花に暮春の光かな 同一五

瀧本水鳴計報到る

音もなく静に暮れし春の如 同

風吹いて暮春の蝶のあわたゞし 同

春惜む

弓すてゝ行春惜む平家かな 明治二七

村や董や祇や春惜む喫茶夜話 同三五

逢坂を越ゆる日春を惜みけり 明治三八

春惜む人白面の書生かな 同

大董送別

春惜むこゝろを君にわかつかない 同三九

たいこもち連れて社参や春惜む 同

春惜む趣向に集ふ草の宿 同

春惜むそゞろ心や家にあらず 同

春惜む人のまとゐに遅参かな 同

浪間なる人買船や春惜む 同

如何にして春惜むやと御状かな 同

壽福寺はおくつきどころ惜しや春 同四一

春惜む輪廻の月日窓に在り 大正三

亡國の狭斜美し春惜む 同

無住寺の扉に耳や春惜む 昭和三

事務多忙頭を上げて春惜む 昭和九

立上り而して歩む春惜む 同一四

この春は病みてなか／＼惜まるゝ 同一五

春惜む思ひ屈する如くにも 同一六

其角の三日月の文臺、葵の軸を見る

元祿の昔男と春惜む 同

春惜むベンチがあれば腰おろし 同一七

春惜み且は風雨の厭はしく 同

惜春や庭を畑に出でゝ見し 同

春惜む硯料紙も旅鞆 同一八

春惜むいのち惜むに異ならず 同

息子住む田舎家に來て春惜む 同

脇息に手を置き春を惜みけり 同

君とわれ惜春の情なしとせず 同

初繪二早初寒二立春

の

午	踏	替	春	春	明	月	春	
.....
一九	一九	一八	一八	一八	一八	一七	一六	五

二月

索

引

(月順・季題別)

野	白	猫	春	春	餘	春	冴	薄	殘	雪	薪	針
燒		の	時	の	風		返					供
く	魚	戀	雨	邪	寒	寒	る	氷	雪	解	能	養
.....
三六	三六	三三	三二	三二	三二	二八	二八	二八	二六	二三	二一	二〇

下駄穿いて縁に腰して春惜む

昭和一八

沈	林	李	梨	桃	種	都	蘆	東	櫻	草	山	寒
丁	檜	の	の	の			邊					
花	花	花	花	花	痘	踊	踊	踊	餅	餅	葵	食
.....
二三六	二三六	二三六	二三五	二三二	二三一	二三一	二三一	二三〇	二二八	二二六	二二六	二二六

朧	春	春	春	春	春	春	春	木	檀	連	木	辛
	の		の	の	の			瓜	子			
	の							の	の			
月	月	燈	夜	宵	暮	晝	曉	花	花	翹	蓮	夷
.....
二五五	二五一	二四九	二四七	二四五	二四四	二四四	二四二	二四〇	二三九	二三九	二三八	二三八

春	茅	齊	藥	紫	蒲	董	防	芹	蕨	土	母	蓬
		の		雲	公						子	
蘭	花	花	萋	英	英		風			筆	草	
.....
二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二一〇	二〇九	二〇八	二〇七	二〇六	二〇四	二〇四	二〇四	二〇三

出	入	初	長	麗	春	春	日	春	彌			利
					の	の		の			四	
											月	
代	學	櫻	閑	か	雲	空	永	日	生			茶
.....
二二五	二二五	二二五	二二四	二二四	二二一	二二〇	二一六	二一三	二一三			二一一

春	梅	十	竹	藥	古	若	春	孕	雀	燕	鳥	轉
	若	三	の				の		の	の	の	
光	忌	詣	秋		草	草	草	鹿	巢	巢	巢	
.....
三三九	三三九	三三八	三三八	三三八	三三八	三三七	三三三	三三二	三三二	三三二	三三二	三三一

鞆	石	風	風	風	春	蝶	豆	大	花	菜	青	風
	齧						の	根	菜	の		光
鞭	玉	船	車		風		花	花	漬	花	麥	る
.....
三五八	三五七	三五七	三五七	三五五	三五二	三四二	三四二	三四一	三四一	三四〇	三三九	三三九

磯	春	春	櫻	花	花	花	櫻	花	柳	蚪	龜	隴
遊		の									鳴	
び	潮	海	鯛	曇	箒	見				蚪	く	
.....
三二四	三二一	三二〇	三一九	三一八	三一七	三〇五	二九一	二六七	二六一	二五九	二五八	二五六

甘	花	灌	ア	ヒ	チ	櫻	寄	壺	櫻	馬	蛤	汐
	御		ネ	ヤ	ユ		居					
茶	堂	佛	モ	シ	ー	草	蟲	燒	貝	刀		干
.....
三三一	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三二九	三二九	三二九	三二九	三二九	三二八	三二八	三二四

17265

本定
虛子全集
第一卷



昭和廿三年十月廿五月初版印刷
昭和廿三年十月三十日初版發行

定價二百六十圓

著者 高濱 虛子

發行者 矢部 良策

大阪市北區樋上町四五番地

印刷者 井下 精一郎

大阪市西淀川區柏里町三丁目

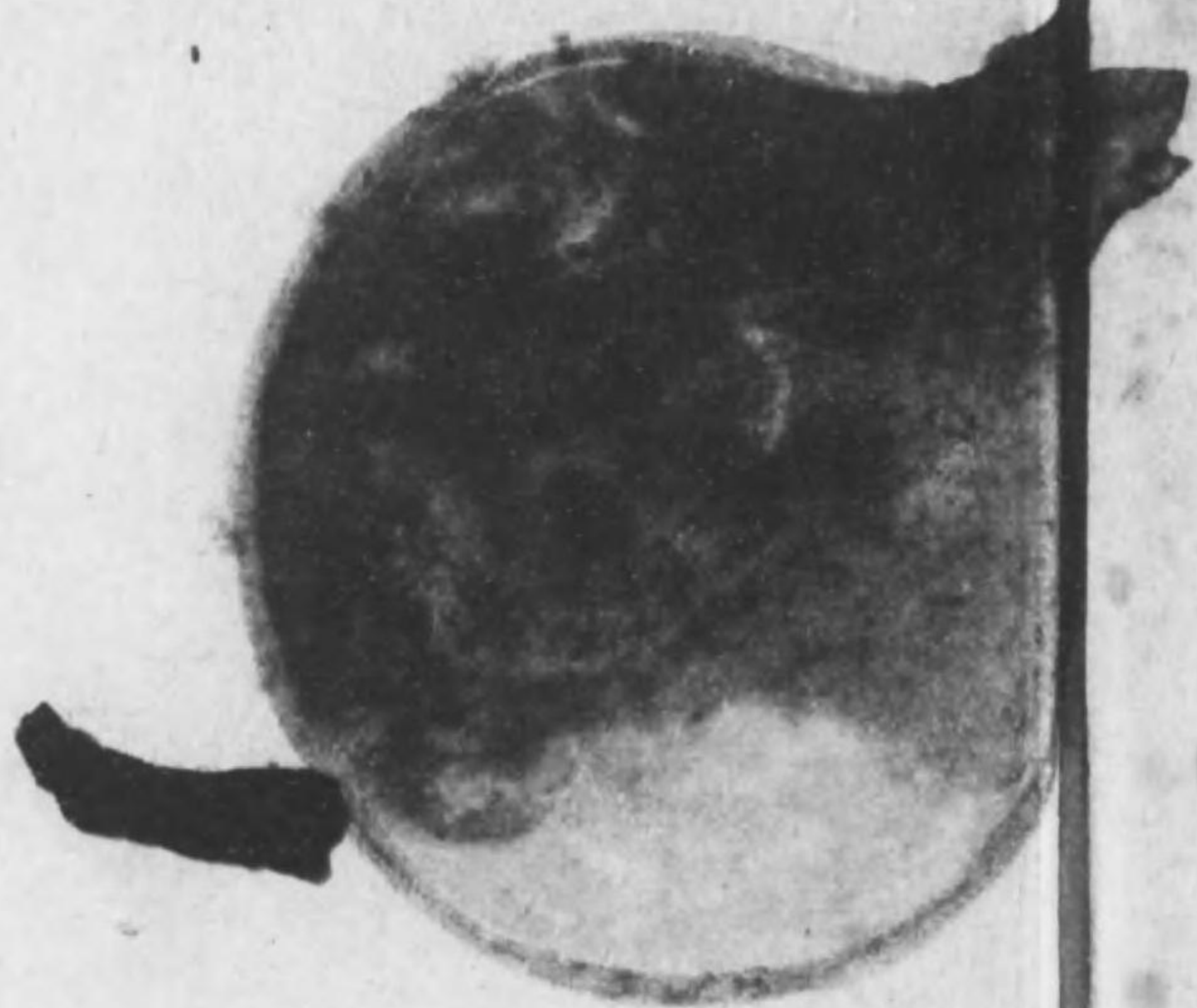
發行所 株式會社 創元社

大阪市北區樋上町四五番地

振替口座大阪五七〇九九番

東京都中央區日本橋小舟町二

振替口座東京一五六五番



終

